イノベーション交流会
概要説明

イノベーション交流会事務局
（NEXCO中日本　*i-MOVEMENT*　推進室）

イノベーション交流会
Innovative Expressway Consortium

INDEX

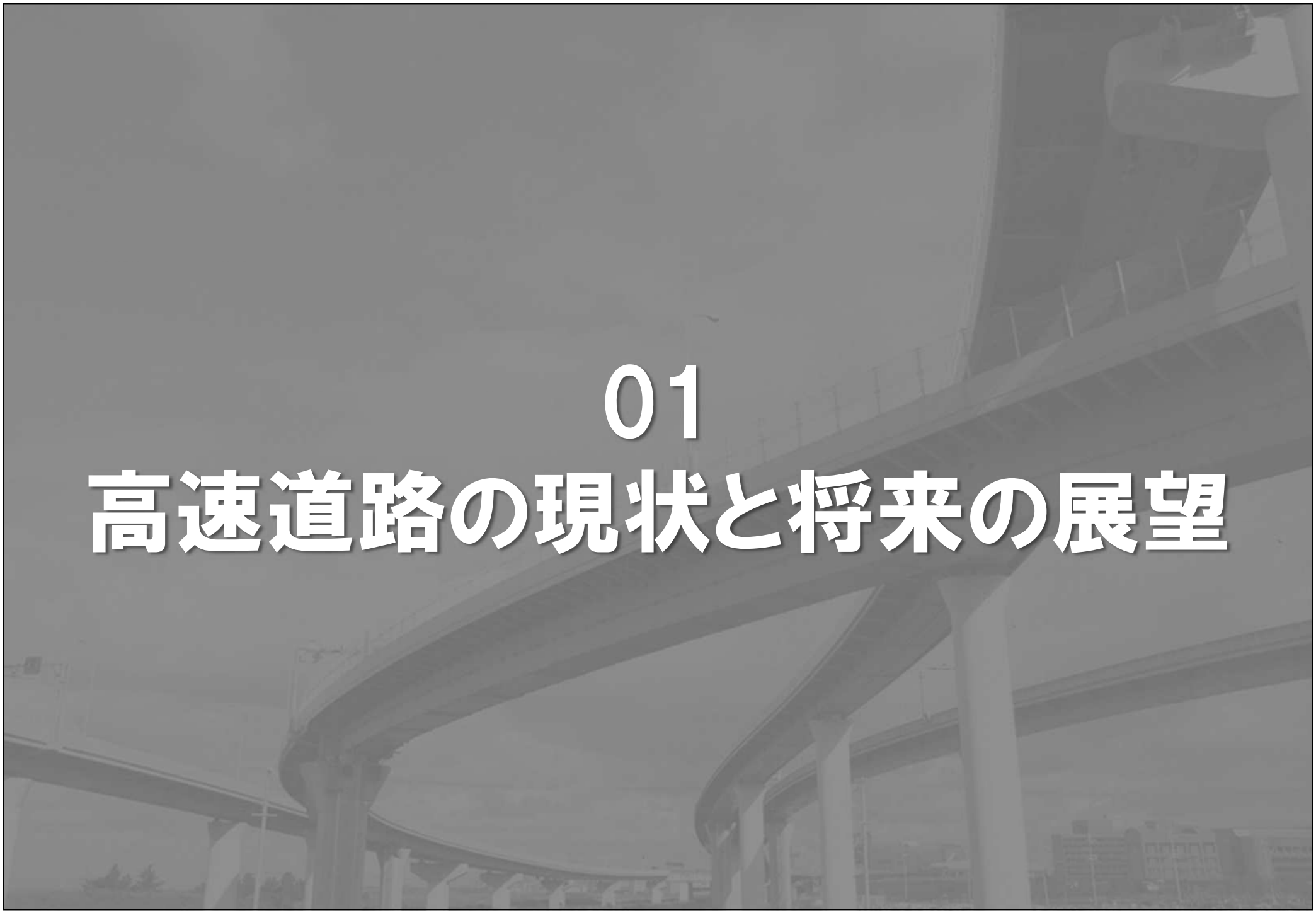
01：高速道路の現状と将来の展望

02：NEXCO中日本が取り組むDX
『*i-MOVEMENT* プロジェクト』

03：イノベーション交流会の設立

04：イノベーション交流会の仕組みと活動方法

05：FAQ



01
高速道路の現状と将来の展望

NEXCO中日本 会社概要

中日本高速道路株式会社

(Central Nippon Expressway Company Limited)

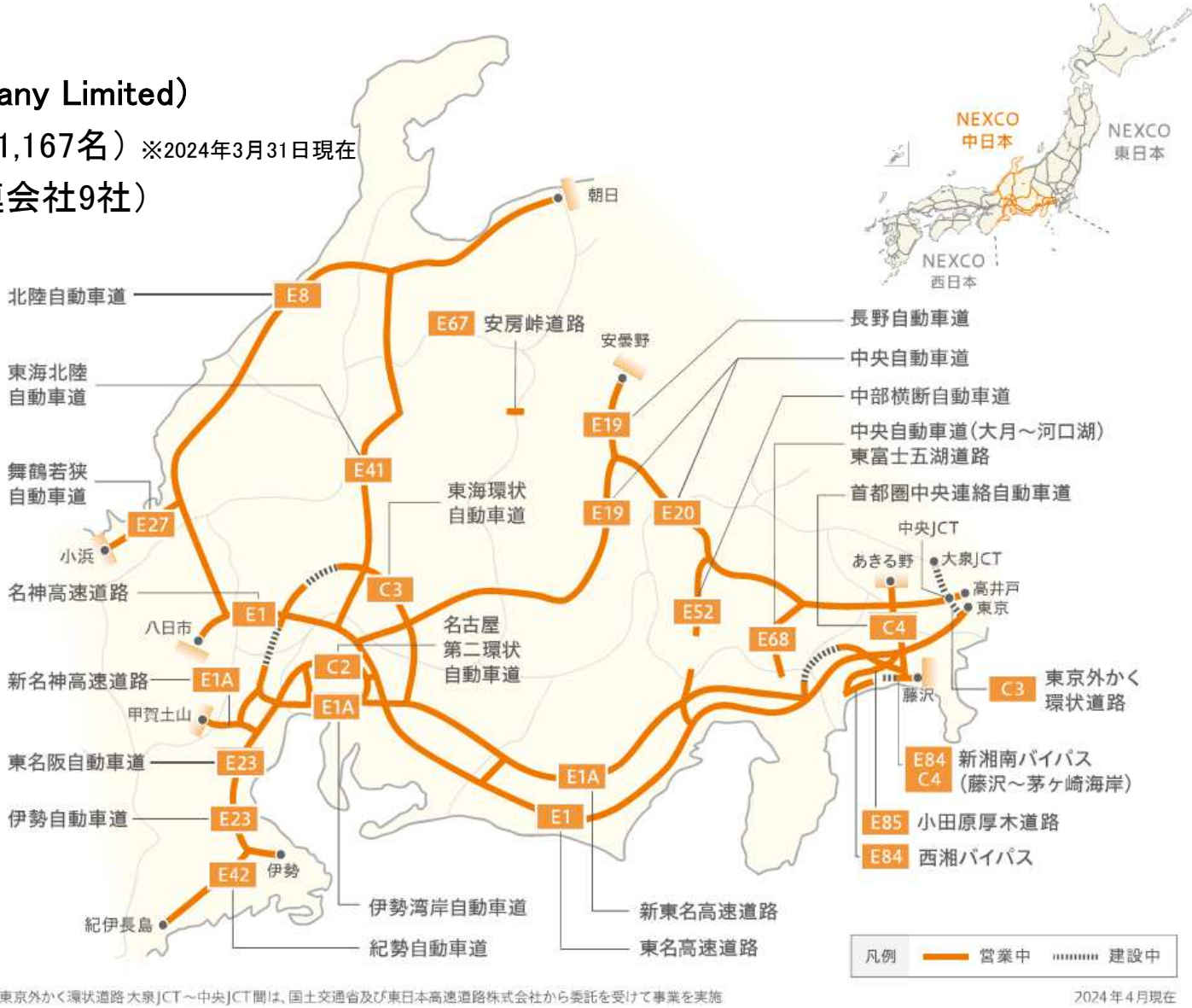
従業員数: 2,362名(グループ全体11,167名) ※2024年3月31日現在

グループ会社: 23社(持分適用関連会社9社)

営業延長	2,201km
利用台数	202万台/日
料金収入	6,721億円

建設延長	72km

※2025年4月時点



※東京外かく環状道路 大泉JCT～中央JCT間は、国土交通省及び東日本高速道路株式会社から委託を受けて事業を実施

2024年4月現在

高速道路会社のビジネス領域

高速道路事業

関連事業

【保全・サービス事業】高速道路の保守・管理・サービス

〈補修工事〉

〈維持業務〉

〈保全点検〉

〈交通管理〉

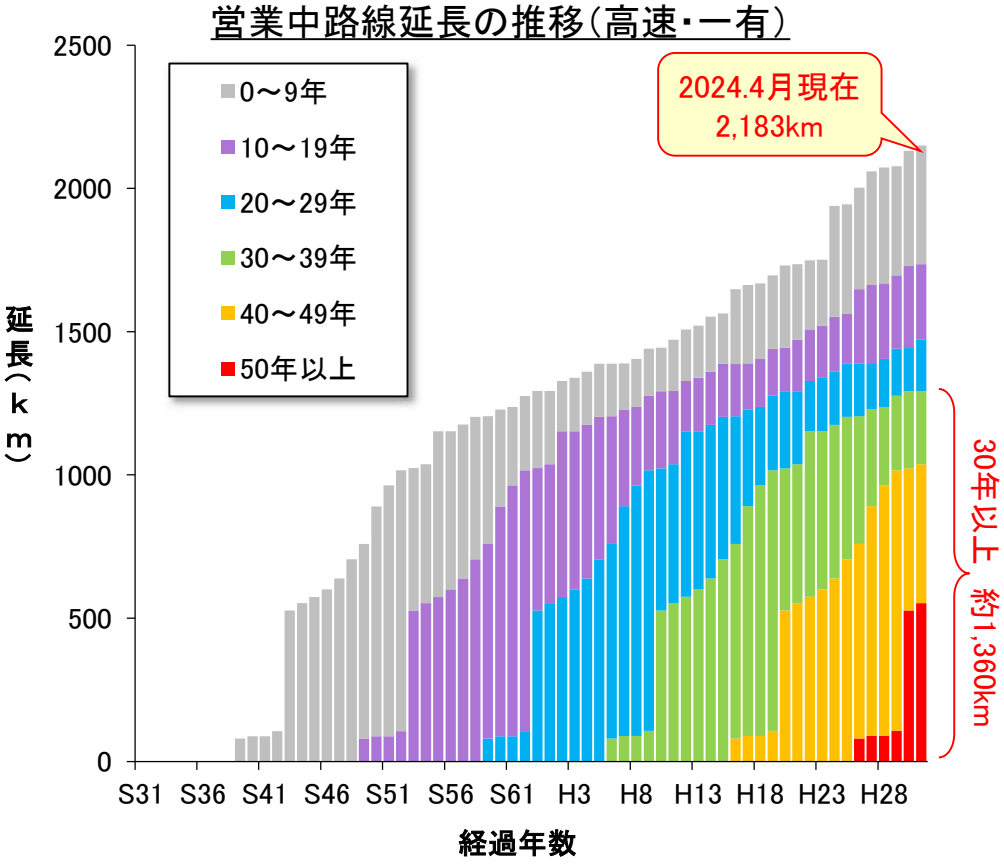
〈料金収受〉

〈ETC〉

【内部環境】高速道路ネットワークの高齢化

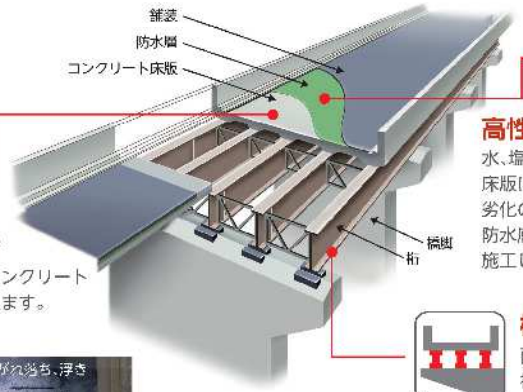
○NEXCO中日本の管理する高速道路（2,183km、2023年3月現在）のうち、供用後50年を経過する東名・名神をはじめ、供用後30年を経過する道路が全体の約6割を占める。

○高齢化する高速道路ネットワークの長期的な保全事業（適切な点検と集中的な補修・補強）の計画立案が急務。



【内部環境】高速道路リニューアルプロジェクト

橋梁更新



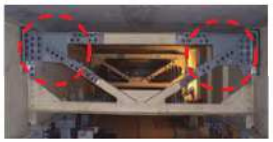
高性能床版防水の施工
水、塩化物イオンがコンクリート床版に浸透するのを遮断し、劣化の進行を抑えるために、防水層に高性能な床版防水を施工します。

床版の取替
耐久性の高いコンクリート床版に取り替えます。

■橋梁損傷状況

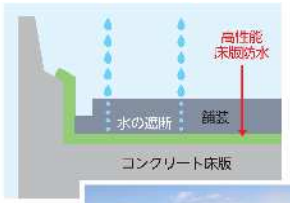
桁補強
耐久性を高めるために、桁に補強部材を取り付けます。

■補強部材の取り付け

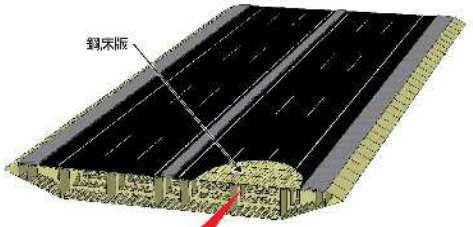


橋梁修繕

コンクリート床版の修繕
コンクリート床版上面の打換えを行うとともに、劣化の進行を抑えるために、高性能床版防水を施工します。

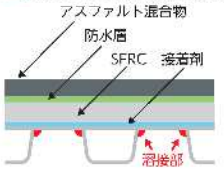


鋼床版の修繕
大型車交通の影響により亀裂が発生している鋼床版を、鋼繊維補強コンクリート(SFRC)などにより補強します。



■損傷発生概要

■SFRCによる鋼床版の補強



トンネル

インバート設置
トンネル周辺の土圧に対して、安定性を向上させるために、インバートを設置します。

■トンネル損傷状況

覆工補強
老朽化したトンネルの覆工コンクリートを補強します。

■施工前

■施工後

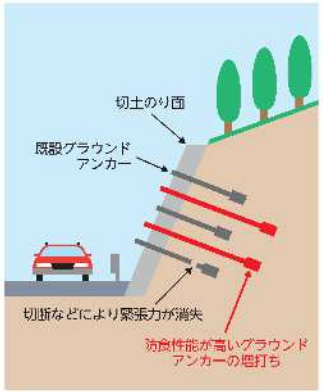
土構造物

グラウンドアンカーの施工
切土のり面の長期安定性を確保するために、防食性能が高いグラウンドアンカーを施工します。

■グラウンドアンカー損傷状況

■対策イメージ

※グラウンドアンカーとは、切土の斜面に沿く土塊のすべり力を、緊張力を利用して抑止させるものです。



【内部環境】高速道路リニューアルプロジェクト

中央道　多摩川橋　床版取替

東名（大井松田～御殿場IC間）グランドアンカー施工

東名　東名多摩川橋　床版取替

小田原厚木道路　トンネル覆工コンクリート補強

【内部環境】防災・減災対策

- 近年の激甚化する災害の経験から、災害等発生時に速やかに交通機能を確保できるように高速道路の機能強化を進めています。
- 昨今は、ゲリラ豪雨など異常気象が頻繁に発生していることから、高度な高速道路管理を求められている。

〈降雨災害〉

2013.9.16
名神彦根IC付近

〈強風被害〉

2018年9月台風21号　強風による
車両横転事故（名神高速）

〈越波被害〉

2007年9月台風9号（高波）による橋梁・
盛土の被害（西湘バイパス被災）

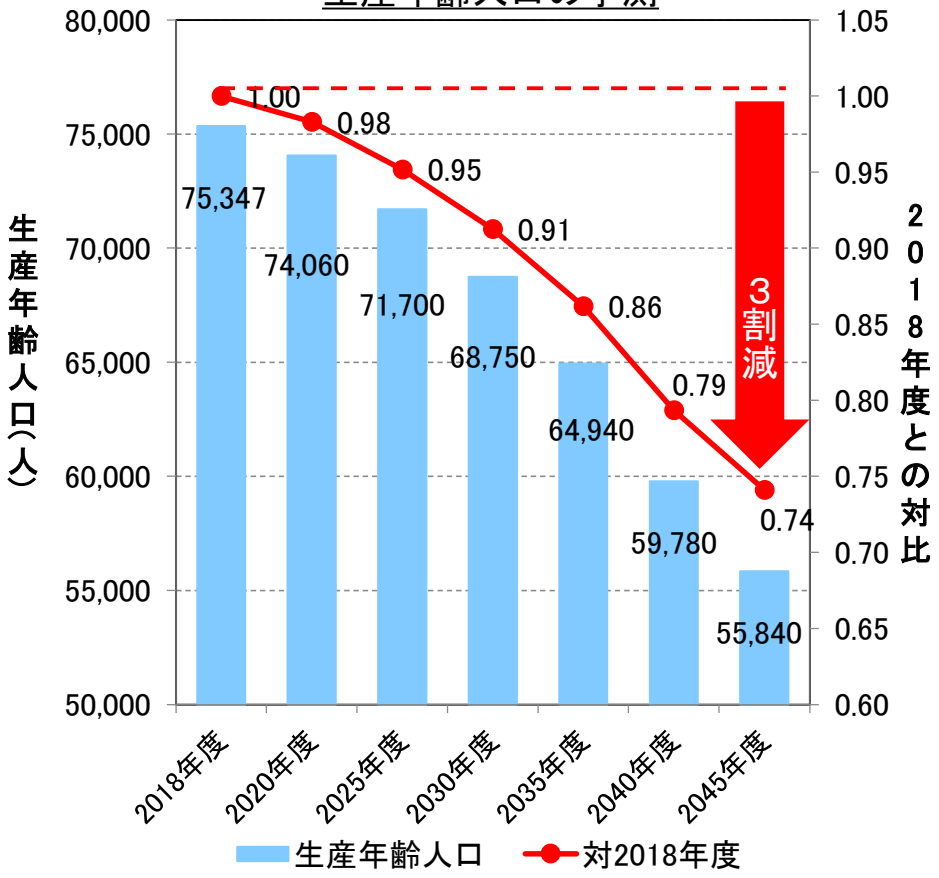
【内部環境】雪氷(冬季交通確保)対策

- 冬季の道路ネットワーク機能への影響の最小化(通行止めの回避、規制の早期解除、冬用タイヤチェックによる渋滞対策)を図るため、雪氷作業の効率化を推進。
- 冬季の大規模滞留の抑制と通行止め時間の最小化を図るため、チェーン規制を一部区間に導入

【外部環境】生産年齢人口からみた将来の影響予測

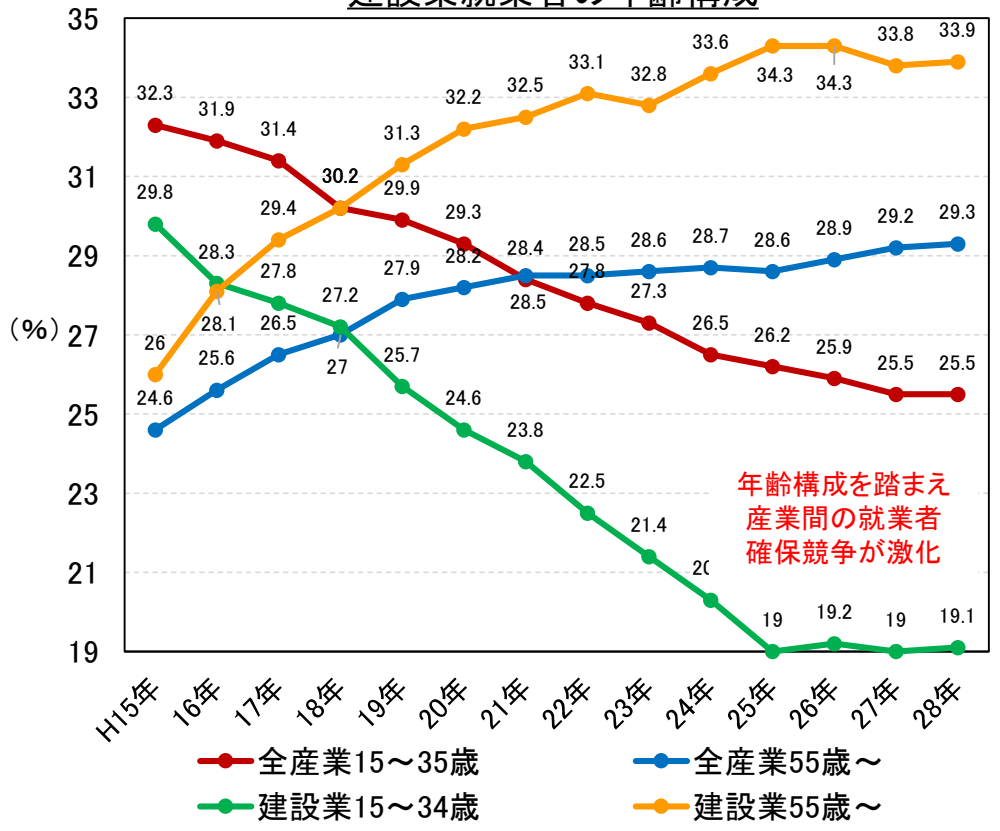
- 生産年齢人口は、2018年度に対し2045年度には約3割減と予測されており、この人口減に加え、建設産業の年齢構成による就業者確保競争の激化とともにワークライフバランスを目指し、単位作業当たり従事者数を確保しなければならない。

生産年齢人口の予測



〔出展〕内閣府(2022)「令和4年版高齢社会白書」

建設業就業者の年齢構成

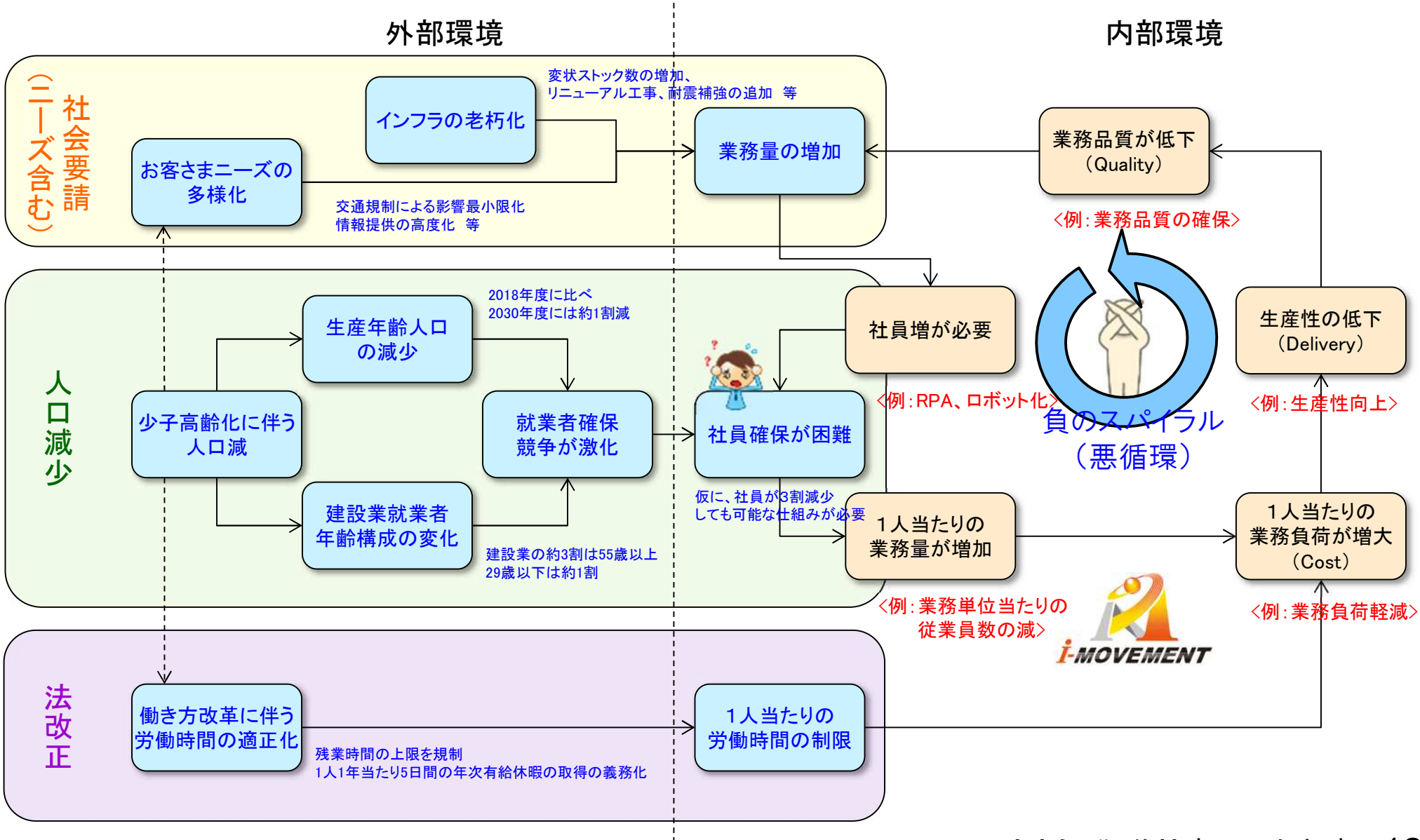


〔出展〕総務省「労働力調査」

外部・内部環境の整理 （まとめ）

将来、普遍的な状況

*i-MOVEMENT*で変化可能



02
NEXCO中日本が取り組むDX
『*i-MOVEMENT* プロジェクト』

i-MOVEMENT プロジェクトのビジョン

次世代技術を活用した革新的な高速道路保全マネジメント

innovative -Maintenance & Operation for Vital-Expressway Management with Efficient "Next generation" Technology

最先端のICT技術・ロボティクス技術の導入により、
人口減少などの高速道路を取り巻く環境の激変に対応しつつ、
高速道路モビリティの進化を目指すNEXCO中日本の活動(ムーブメント)を表しています

ビジョン(ありたい姿)

交通運用改革	料金・サービス改革	メンテナンス改革	保全マネジメント改革	地域活性改革
事故・渋滞を無くすことによる、安全で円滑な使いやすい(ストレスフリー)高速道路を提供する	お客さまの満足度を高め、移動手段の第一候補として選び続けていただける高速道路をを提供する	安全性の確保を第一優先とし、社会インフラの機能を確保した良質な高速道路を継承し続ける	ロボットやICT技術との融合を図り、保全・サービス事業における最新のマネジメント体制を構築し、生産性の最大化を実現する	高速道路の機能や保全・サービス事業部門が保有する技術を惜しみなく活用し、地域の活性化に寄与するサービスを提供する

i-MOVEMENT プロジェクトのビジョン

○「人口減少に伴う生産年齢人口の減少」「お客さまニーズの多様化による新たなサービスの提供」「社会インフラの老朽化など事業量拡大」など様々な環境変化など、時代の要請に応じ進化する高速道路事業運営のデジタル化「*i-MOVEMENT* プロジェクト」を推進。
○インフラマネジメントだけではなく、交通運用やお客さまサービスなど全般的に、IoTやビッグデータ、AI、RPA等最新技術を活用した新たな事業運営手法（DX）により、グループ全体の生産性（効率性）を飛躍的に向上するとともに、平常時、災害時を問わず機能を失わない、安全を何よりも優先し、より付加価値の高い安心・快適な高速道路空間の提供を目指す。

〈*i-MOVEMENT*プロジェクト イメージ図〉

交通運用	➢ 事故・渋滞を無くすことにより、安全で円滑な使いやすい（ストレスフリー）高速道路を提供する 【情報収集・取得】 ○ センシング技術による**全線常時監視** ○ AIの活用による**異常事象自動検知** ○ カープローブなどによる**通行車両の把握** 【分析・解析】 ○ **AI等を活用した高精度渋滞予測**や通行止め解除予測 ○ 道路管制センターの**オペレーション機能強化**
お客さまサービス	➢ お客さまの満足度を高め、移動手段の第一候補として選び続けていただける高速道路を提供する 【運用】 ○ **旅行快適化支援（MaaS）アプリ**による情報提供 ○ **料金収受業務の高度化**
メンテナンス	➢ 安全性の確保を第一優先とし、社会インフラの機能を確保した良質な高速道路を継承し続ける 【運用】 ○ 各種点検作業の**機械化・自動化** ○ 緊急**補修オペレーションの高度化**
保全マネジメント	➢ ロボットやICT技術との融合を図り、保全・サービス事業における最新のマネジメント体制を構築し、生産性の最大化を実現する ○ **3次元モデリング**による保全管理基盤の導入 ○各種データ蓄積とプラットフォーム戦略

保全・サービス事業における地域活性化

Innovative-Maintenance & Operation for Vital-Expressway Management with Efficient 'Next-Generation' Technology

次世代技術を活用した革新的な高速道路保全マネジメント

常に次世代を意識しながら、最新技術を生み出し、革新（イノベーション）を引き起こし、戦略的かつ自発的な仕組みによる高速道路事業の運営を実現する。

i-MOVEMENT

Traffic Innovation 交通運用改革

1. 全線常時監視による現場状況把握の効率化 ▶ 固定カメラの増設など
2. 移動体監視による路面状況等把握の効率化 ▶ ドライブレコーダーからの取得など
3. 災害・異常事態自動検知による事象対応の迅速化 ▶ 画像処理による検知など
4. 渋滞予測の高度化（工事含む）
5. 交通事故予測の高度化
6. ドライバー行動変容に向けた交通需要マネジメント ▶ 多様な情報提供方法など
7. 通行車両の状態把握の高度化
8. 法令違反車両検出の高度化
9. 落下物の自動回収
10. 道路管制センターの機能強化

Service Innovation 料金・サービス改革

11. お客さま動向把握・分析の高度化
12. 旅行快適化支援アプリによるサービス向上 ▶ スマホアプリの開発など
13. 料金収受業務の高度化

Maintenance Innovation メンテナンス改革

14. 構造物等の状況把握（データ取得）の高度化 ▶ 点検の高度化など
15. 変状データ分析・維持修繕計画策定の高度化 ▶ 劣化予測など
16. 維持作業（清掃及び植栽作業）の機械化による省力化
17. 雪氷作業の機械化による省力化
18. 緊急補修オペレーションの高度化
19. 現場の作業状況把握（品質検査含む）の効率化・省力化
20. 工事規制の高度化・省力化
21. 危険予知による作業員の安全管理

Management Innovation 保全マネジメント改革

22. 3次元モデリングによる保全管理基盤の導入
23. 各種データ蓄積とプラットフォーム構築による多角的分析の実現
24. 事業進捗把握の効率化
25. 設計・積算作業の効率化
26. i-MOVEMENTに則した業務プロセス・体制の見直し

Region Innovation 地域活性改革

※i-MOVEMENTの実現を目指したコンセプト的なイメージ図であり、実際に整備するものとは異なります。

i-MOVEMENTによる業務変化

未来の事象把握

未来の橋梁点検

未未来ののり面点検

未来の交通安全施設・交通管理施設点検

未来のスマートSA（トイレの維持管理）

未来の緑地管理

未来の雪氷作業

未来の冬用タイヤ規制

未来の現場スタイル

未来の保全業務

情報収集・取得

》交通情報

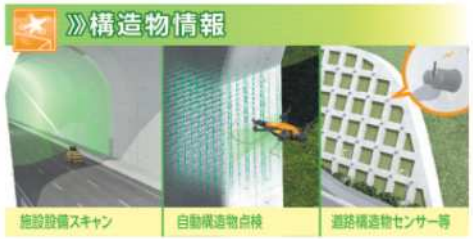
》SNS情報

》気象情報

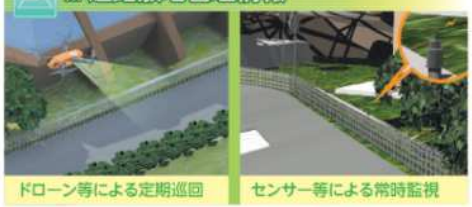
》路面情報

》料金所情報

》構造物情報



》道路敷地管理情報



》点検・調査情報

分析・解析・予測・指示

DKCによる分析・解析・予測・指示

リアルタイム指示

長期保全計画運用・維持管理

HSC 》》》作業状況

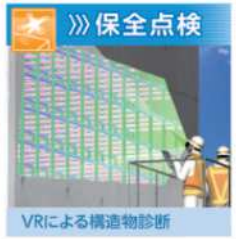
運用(実施)・サービス提供

》維持修繕

》交通管理

》料金収受

》保全点検



DKC 》》》情報提供

i-MOVEMENT プロジェクト　専用WEBサイト

i-MOVEMENT ビジョン紹介

動画約2分15秒

- i-MOVEMENTの概要について解説
- 高速道路の保全・サービス事業全般を対象とした改革について、5つのビジョンをもとに紹介

i-MOVEMENTの世界観（インフラマネジメント編）

動画約3分45秒

- i-MOVEMENTの取組みのうち、構造物点検の内容に焦点をあてて解説
- 現在の点検手法と、実現をめざす高度化技術や、それらを活かしたマネジメント手法を紹介

i-MOVEMENTの世界観（道路管制センター編）

動画約3分00秒

- i-MOVEMENTの取組みのうち、道路管制に焦点をあてて解説
- 新設するインフラ司令・サービス司令の役割や、事象検知技術の高度化などを紹介

i-MOVEMENT概要パンフレット

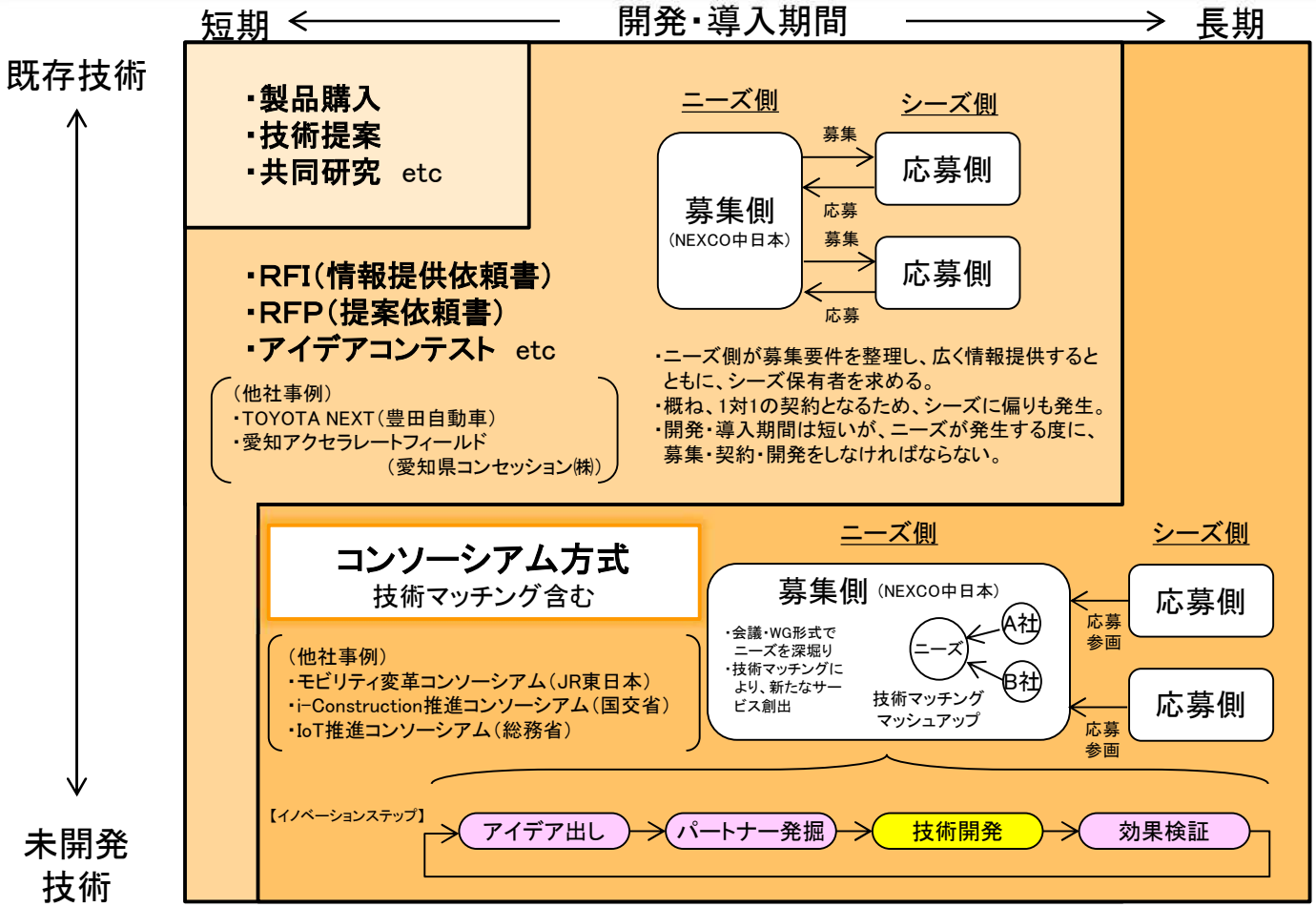
パンフレット2種

- i-MOVEMENTの取り組みにより目指すものについて紹介
- i-MOVEMENTによって運用される情報収集→分析/予測/解析→運用サービスについて業務ごとに紹介

03
イノベーション交流会の設立

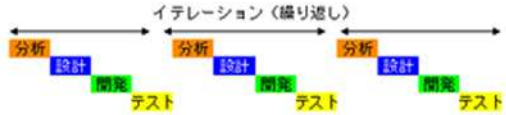
i-MOVEMENT におけるオープンイノベーションの考え方

○ *i-MOVEMENT*を進めるにあたり、早期実現を目指すために、自社技術のみならず、オープンイノベーションによって推進する。
○ 長期的な活動を視野に入れ、幅広い分野の企業や大学等との連携を確保することを目的とし、コンソーシアム方式のような枠組みを活用し、新たな技術や価値を生み出す。
○ その際、アイデア出しフェーズから各企業との意見交換を図り、アジャイル開発により早期導入を目指す。



■ 即時導入を目指すため、開発・導入・検証を繰り返し、現場との意見を開発に反映する仕組みとする。

アジャイル開発



・変化への対応が前提
・コミュニケーションや対話を促進する枠組み
・正しく動くソフトウェア(コード)を重視
・顧客とのコラボレーションがベース

(今までの開発手法)

ウォーターフォール型開発

・計画に従うことを前提
・プロセス中心の考え方
・ドキュメント成果物を重視
・顧客との契約がベース

イノベーション交流会の設立（2019/7/24設立）

イノベーション交流会
Innovative Expressway Consortium

高速道路会社　民間企業　自治体・公共団体　研究機関・大学

1 ニーズ提案

高速道路会社（インフラ会社）が抱える業務課題や変革したいニーズの種を広く収集し、発信

2 シーズ提案

各社が所有する先端技術をシーズとして提案
各シーズを組み合わせた、検討を実施

3 実証実験

ニーズとシーズのマッチングにより創出した技術の実証活動を、高速道路フィールドにて実施

4 技術導入

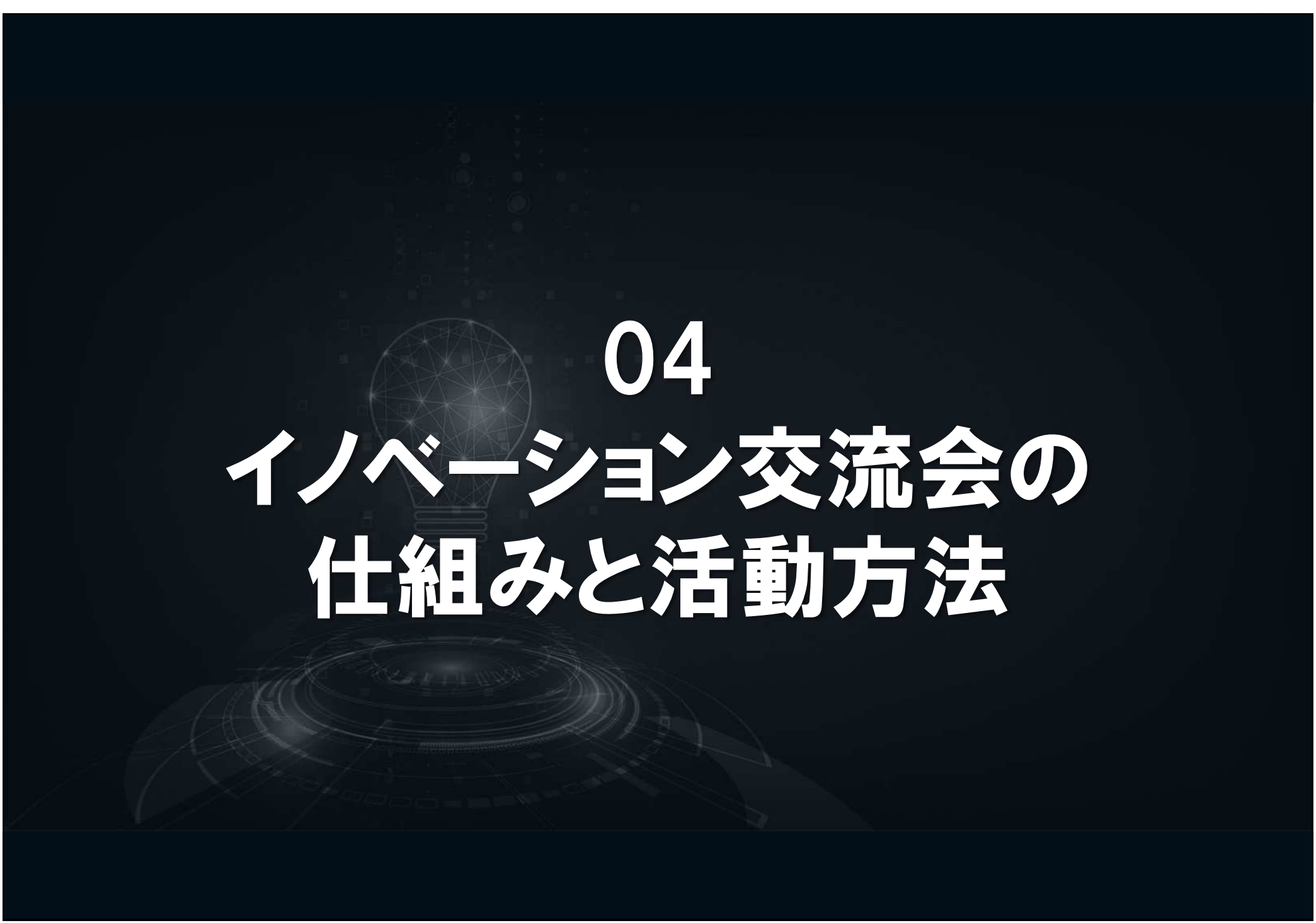
実証を完了した技術を高速道路オペレーションへ実運用するために運用・展開

イノベーション交流会概要

ニーズとシーズのマッチングにより、高速道路事業運営をオープンイノベーションで推進

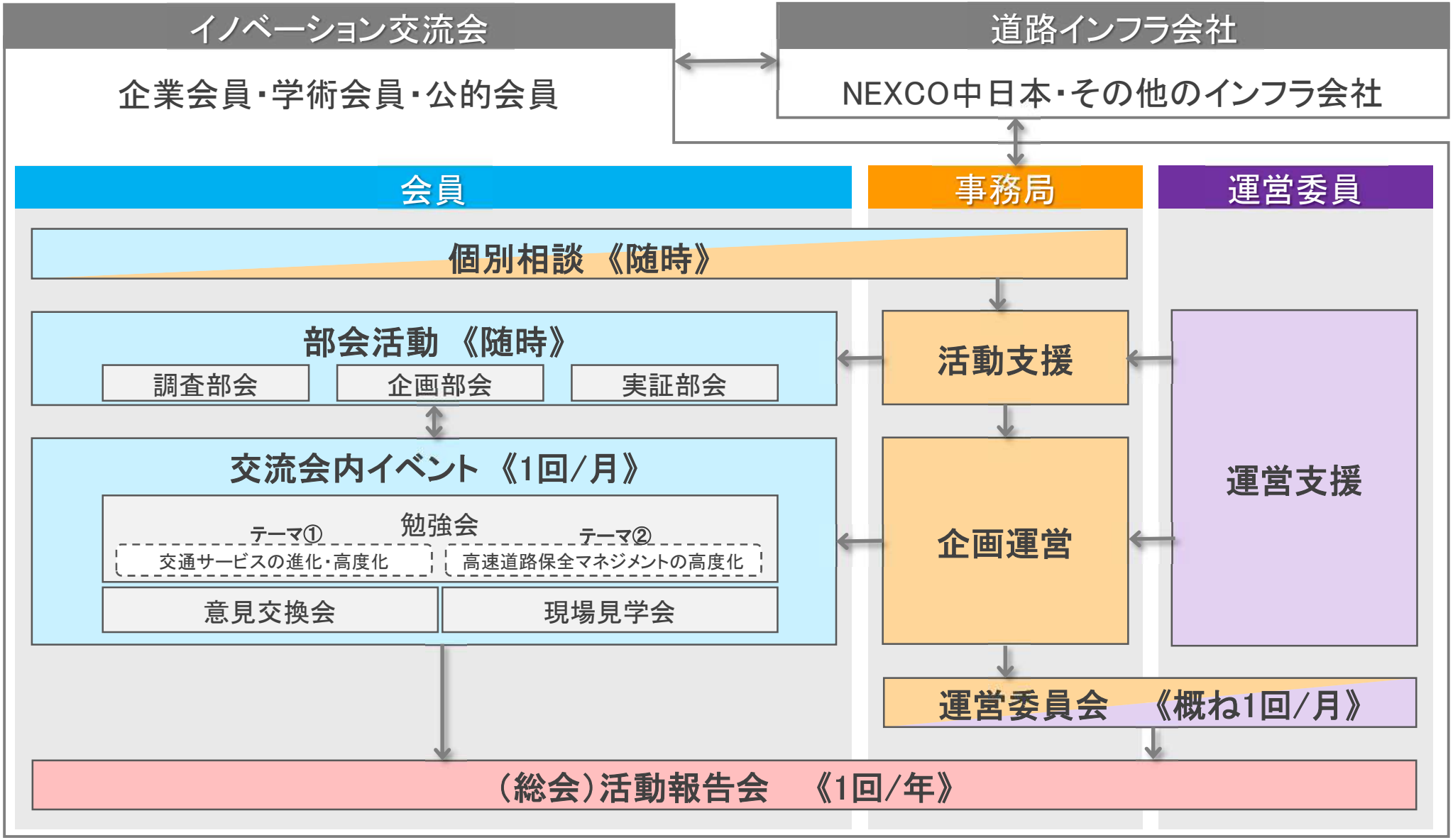
（イノベーション交流会　会則抜粋）

名称 （第1条）	イノベーション交流会
目的 （第2条）	高速道路が抱える課題を捉え、これまで培ってきた技術の蓄積と併せて、将来の課題を解決するべく、従来の枠組みを超えた新しい高速道路事業運営をオープンイノベーションで推進していくこと。
事業 （第3条）	（1）高速道路事業運営の改革推進に向けた情報の収集・発信 （2）高速道路事業運営に関する社会ニーズの集約 （3）高速道路事業運営に関する技術シーズの集約 （4）高速道路事業運営改革を推進する為の実証実験の実施 （5）高速道路事業運営改革を推進する為の検証用システム等の開発 （6）その他、本コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業
会員種別 （第8条）	本コンソーシアムの会員は高速道路事業運営革命の推進に関連し、その提言、実証実験等を通じて、高速道路の発展に貢献する意思のある企業、団体 ・ 企業会員：国内外の企業として参加している会員 ・ 学術会員：大学、研究機関等として参加している会員 ・ 公的会員：行政、地方自治体として参加している会員
会費 （別紙）	・ 企業会員→〔入会初年度〕100,000円 〔入会2年目〕80,000円 〔入会3年目〕60,000円 〔入会4年目以降〕50,000円 ・ 学術会員及び公的会員は無料
入退会 （第10,11条）	・ 入会申込書を提出し申し込み、運営委員会の議決をもって承認 ・ 退会を希望する会員は、退会申請書を会長に提出することで退会可能



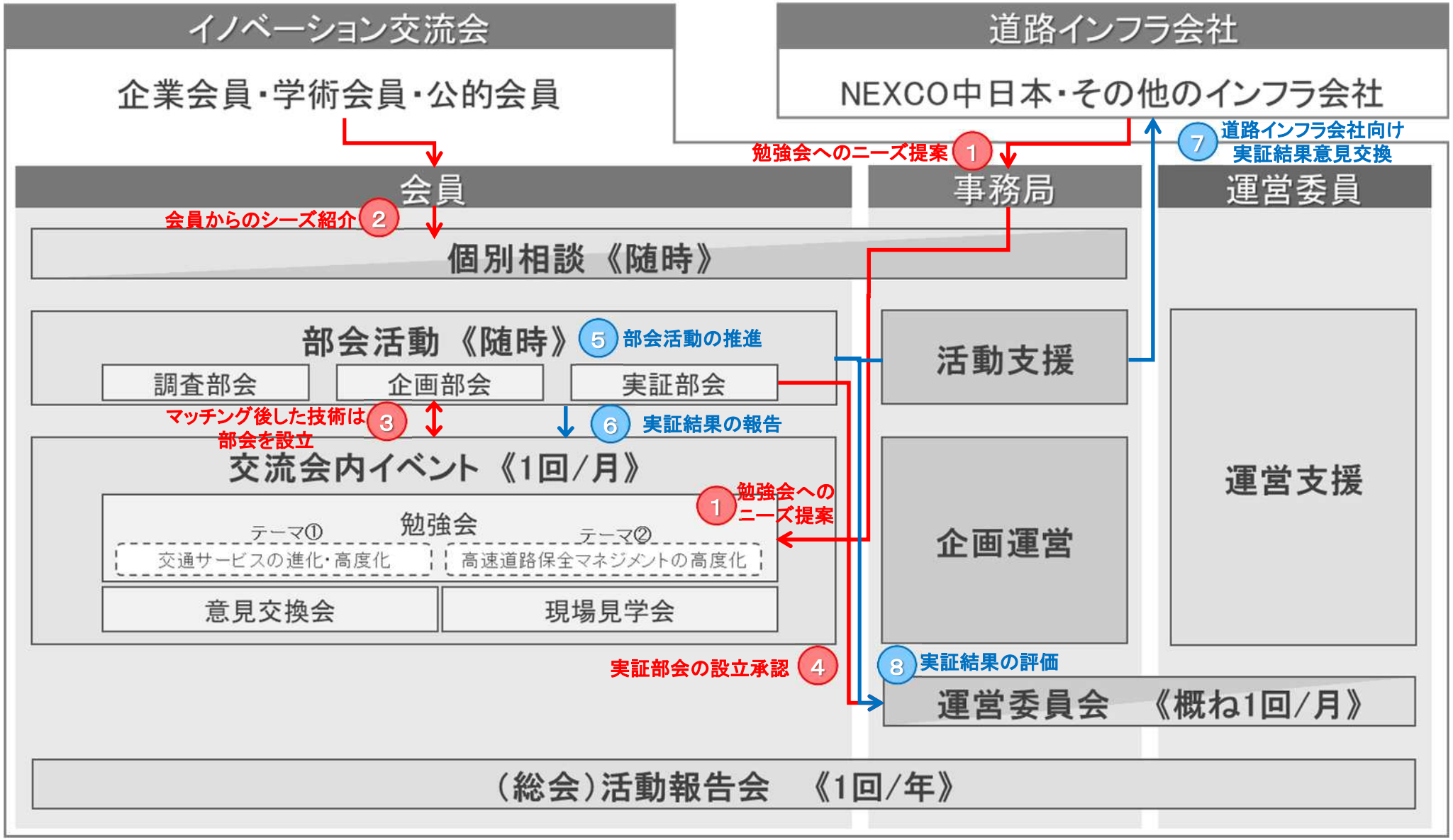
04
イノベーション交流会の仕組みと活動方法

イノベーション交流会の仕組み



イノベーション交流会の仕組み

1 → 4 部会活動前　5 → 8 部会活動中



イノベーション交流会の活動内容について

イノベーション交流会では様々な活動を通して、ニーズとシーズのマッチング促進を図っています

勉強会 （概ね1回/月）

目的	■ 会員企業との情報共有および会員同士の交流の場を提供し、ニーズ・シーズマッチングを促進する
実施内容	➢ 会員企業へのイベント情報・活動結果の共有 ➢ 部会の活動報告および内容についてディスカッションを実施

勉強会実施状況

展示会への出展

目的	■ 交流会外へ情報発信することで、新たな会員企業の獲得およびi-MOVEMENTの認知度向上につなげる
実施内容	➢ 交流会で実証完了した案件をパネル展示にて内容紹介

イベントでの展示状況

意見交換会・現場見学会 （各2回/年）

目的	■ 会員企業にNEXCOグループの業務内容や高度化後のイメージを理解いただき、会員企業のニーズへの理解を促進する
実施内容	➢ NEXCO社員・グループ会社社員からテーマに沿って業務内容を説明、会員企業との意見交換を実施 ➢ 会員企業を招き、業務や高度化技術の現場見学を実施

意見交換会
（テーマ：災害検知）の実施状況

i-MOVEMENTショーケース
見学会の実施状況

高速道路DXアイデアコンテスト

目的	■ スタートアップ企業など会員企業以外からも幅広いアイデアを取りこみ、部会立ち上げにつなげる
実施内容	➢ NEXCO中日本グループや会員企業が保有するデータ等を活用したアプリケーションやアイデアを公募 ➢ 応募作品から確度の高いアイデアを選定・表彰

2024年度
アイデアコンテストの様子

勉強会テーマ①『交通サービスの進化・高度化』

イノベーション交流会

道路管制センターを中心に、情報収集から情報提供を含めた交通・サービスを進化

対象事象（例）	データ収集	データ分析	データ活用	目標

◆交通マネジメント

■高速道路本線
- 車両走行
- 交通事故
- 落下物
- 災害等の事象のり面崩落・越波

■他交通情報
- 他交通状況
- 他災害事象

◆現場状況把握

■道路規制区間
- 規制内への車両侵入
- 規制材の転倒

■道路構造物
- ポットホールの発生
- 立入防止柵の破損

■休憩施設
- 休憩施設利用
- 施設維持作業

■料金所
- 料金所車両停止
- 車両以外の侵入

高速道路内の把握
- 高速道路本線の全線常時監視
- 異常事象監視
- 災害事象監視

高速道路外の把握
- 一般道データの取得
- 他交通機関の運行状況把握

規制区間内の把握
- 工事規制監視支援
- 工事規制機材の位置把握

道路構造物状況の把握
- 車両走行から点検データ取得
- 機械・技術に代替した点検手法

休憩施設の把握
- 人流・車流の状況把握
- 施設データ取得

料金所周辺の把握
- 料金所監視支援
- お客さまからのニーズ

交通データを一元集約

高速道路環境のデータ分析
- 渋滞予測
- 事故分析・リスク予測
- 所要時間提供の精度向上
- 異常事象・災害事象の自動検知
- 交通インフラ環境の分析

規制区間データの分析
- 異常事象の自動検知
- 規制区間危険リスク予測

構造物データの分析
- 劣化要因分析・劣化予測
- 復旧対応検討・計画の自動化

休憩施設データの分析
- 人流・車流分析・混雑予測
- 維持作業計画の検討

料金所周辺データの分析
- 異常事象の自動検知・分析
- お客さま対応ニーズ分析

高度な情報提供と行動変容
- ドライバーへの的確な情報提供
- 高速道路内・外への情報提供
- 交通需要調整

新たなサービスの創出
- 旅行快適化支援サービス
- 自動運転社会サービス

規制区間の安全性向上
- 遠隔による監視と操縦
- ドライバーへの的確な情報提供

道路構造物保守の迅速化
- 復旧対応の迅速化
- ドライバーの安全確保

休憩施設運営の高度化
- ドライバーへの的確な情報提供
- 維持作業の機械化・省力化

料金所サービスの高度化
- 事象対応の迅速化
- 問合せ対応を機械化・遠隔化

目標
- 走行安全性の向上
- 死亡事故件数の削減
- 渋滞量の削減
- 利用交通量の増加
- 高速道路作業の安全性向上
- 休憩施設運営の生産性向上
- お客さま満足度の向上

※高速道路保全マネジメントの高度化分野にてニーズ詳細を提示

勉強会テーマ②『高速道路保全マネジメントの高度化』

構造物保全事業を中心とした、メンテナンス・オペレーションを進化

対象事象（例）	データ収集	データ分析	データ活用	目標
◆点検～補修関係 ■対象構造物 橋梁 / 土工 / トンネル / 舗装 / 道路付属物 / 施設設備	道路構造物状況の把握 車両走行から点検データ取得 機械・技術に代替した点検手法 高速道路構造物・設備の常時モニタリング	保全データの一元管理化 構造物データの分析 変状箇所の自動判定 劣化要因分析・劣化予測 維持修繕計画策定の自動化	点検・補修計画の高度化 緊急補修対応の迅速化 予防保全による構造物の維持 工事発注・現場管理支援	➢ 管理瑕疵事案の防止 ➢ 構造物保全サイクルの向上 ➢ 通行止め時間の削減 ➢ 工事中事故の削減 ➢ 規制作業時間の削減 ➢ 生産性向上
◆事故復旧 ■対象事象 事故事象による道路構造物の損傷	事故事象の把握 高速道路本線の全線常時監視 構造物損傷箇所・範囲の把握	事故事象データの分析 復旧対策検討 復旧計画策定	事故事象対応の高度化 復旧作業時間の短縮 交通規制・復旧作業の機械化	
◆清掃植栽 ■対象物 路面清掃 / 休憩施設清掃 / 植栽維持作業	維持作業状態の把握 高速道路本線の全線常時監視 車両走行から点検データ取得 機械清掃によるデータ取得	維持作業データの分析 維持作業計画の自動作成 維持作業必要資材・作業時間の自動算出	維持作業の機械化 植栽・清掃作業の機械化 作業記録・処理の自動化	
◆料金収受 ■対象事象 車両の停止 / 機器故障	料金所周辺の把握 料金所監視支援 機器情報取得・お客さまニーズ	料金所周辺データの分析 異常事象の自動検知・分析 お客さま対応内容の自動集計	料金収受の高度化 レーン上事象の自動化・遠隔化 バックオフィス業務の省人化・効率化	
◆雪氷作業 ■対象事象 気象の急変 / スタック車両の発生	雪氷環境の把握 気象予測の高精度化 走行車線の常時監視と除雪作業の状況把握	雪氷環境データの分析 気象環境シミュレーション 体制構築支援	雪氷作業の高度化 ドライバーへの的確な情報提供 事象対応を現場と連携し迅速化	

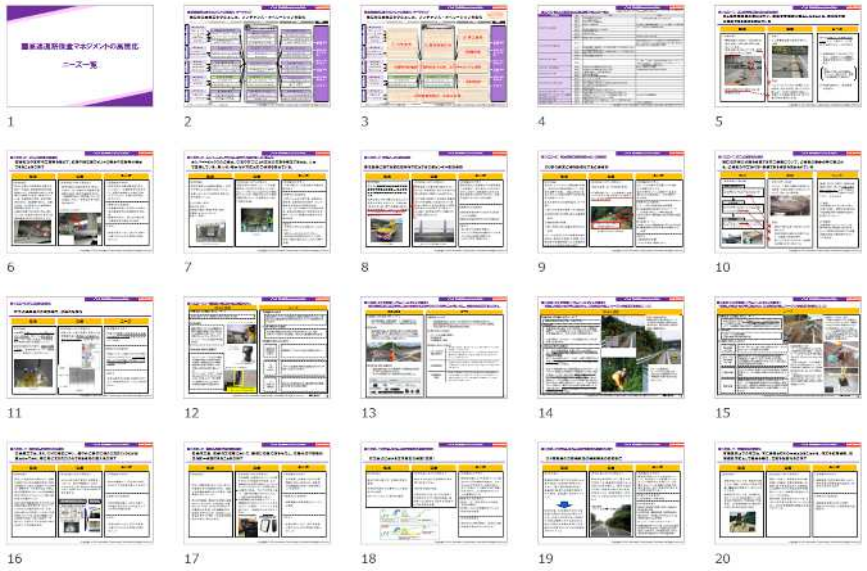
※交通サービスの進化・高度化分野にてニーズ詳細を提示

ニーズとシーズマッチングに向けた取り組み

イノベーション交流会
Innovative Expressway Consortium

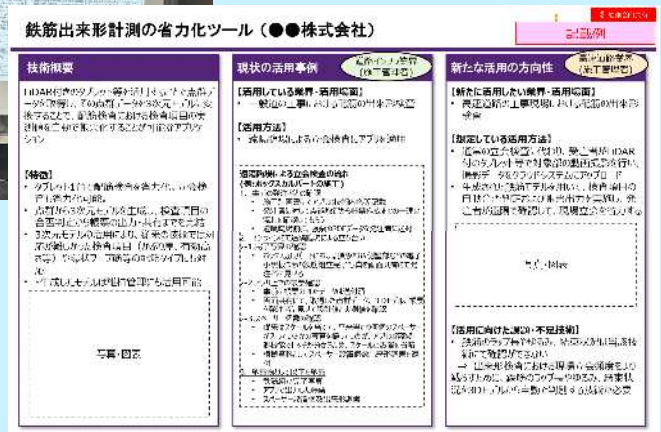
道路インフラ会社からのニーズ提案

概　要	高速道路保全事業が抱える課題・解決したいニーズを勉強会にて会員へ説明
対象者	• NEXCO中日本 • NEXCO中日本グループ会社 • イノベーション交流会に入会している道路インフラ会社
内　容	• 対象業務/活用場面/使用ユーザー • 実施内容/実施内容に関する課題点 • 課題解決の方針/必要とされる機能/各機能に求められる条件　など



会員団体からのシーズ紹介

概　要	会員同士でシーズ情報を交換し、実用化に向けた課題や不足技術等を発信することで、会員同士連携によるニーズ・シーズマッチングの促進およびビジネスマッチング機会の創出を図る
対象者	• イノベーション交流会会員
内　容	• 技術概要/特徴 • 活用している業界/活用場面/活用方法 • 新たに活用したい業界/活用場面/想定している活用方法/活用に向けた課題・不足技術



部会活動の種類

	調査部会	企画部会	実証部会
目的	高速道路事業運営の課題を深堀し、<u>実証メニューを創出</u>する	実証メニューの検討内容を明確化し、<u>実証活動を計画</u>する	実証試験を実施し、<u>技術の要求性能を明確化</u>する
活動内容	✓関連事例の調査 ✓先端技術の勉強会 ✓サービス仮説　等	✓検討内容の精緻化 ✓技術マッチング ✓実証計画の立案　等	✓技術開発 ✓実証実験 ✓効果検証　等
活動期間	目安6カ月間	目安3カ月間	目安1年間 （検証結果を踏まえ継続判断）
活動体制	✓代表会員(設立提案者) ✓参加希望会員（制限なし） ✓NEXCO中日本	✓代表会員(設立提案者) ✓役割が明確な会員 ✓NEXCO中日本	✓代表会員(設立提案者) ✓役割が明確な会員 ✓実証に必要な非会員 ✓NEXCO中日本
設立・参加方法	✓<u>事務局</u>にて事前に協議、設立承認の結果を通知 ✓承認の場合、勉強会時に募集開始		✓<u>運営委員会</u>にて協議、設立承認の結果を通知 ✓承認の場合、通知時に募集開始
設立条件	✓交流会の趣旨に合致すること ✓各部会の目的に合致した活動内容となっていること		

部会活動の流れ

会員は積極的に活動いただくことで、技術実証を幅広く訴求することができます

交流会内

部会設立会員の具体的な実施事項

事務局との個別相談
↓
部会の設立提案
↓
実証活動の実施
（勉強会で進捗報告）
↓
実証活動の完了
↓
道路インフラ会社向け
実証結果意見交換会※
↓
実証完了報告
（運営委員会・勉強会
・記者発表※・WEBサイト※）

交流会外

各インフラ会社の判断事項

実用化見込み
があるか？

Yes → 実用化開発の実施

No → 再調整
（実証継続・別部会設置検討等）

■事務局との個別相談

対象	部会設立を検討中の会員や、ニーズの詳細・自社シーズの活用余地等を個別に相談したい会員
目的	ニーズ・シーズについて個別討論することで、部会の設立を促進する
実施頻度	随時受付中 （集中個別相談会も定期で実施(年2回を予定)）

■道路インフラ会社向け実証結果意見交換会※

※会員の希望に応じて、実施するか否か決定

対象	イノベーション交流会入会会員のうち、自社でインフラを管理している会員
目的	実証結果について広くインフラ会社から意見を聴取し、実用化に向けたブラッシュアップ、検討技術の活用範囲の拡大を促進する
実施頻度	実証部会の完了の都度実施

■実証完了報告※

※会員の希望に応じて、実施するか否か決定

記者発表（NEXCO中日本クレジット）

WEBサイトへの掲載

イノベーション交流会参加のメリット

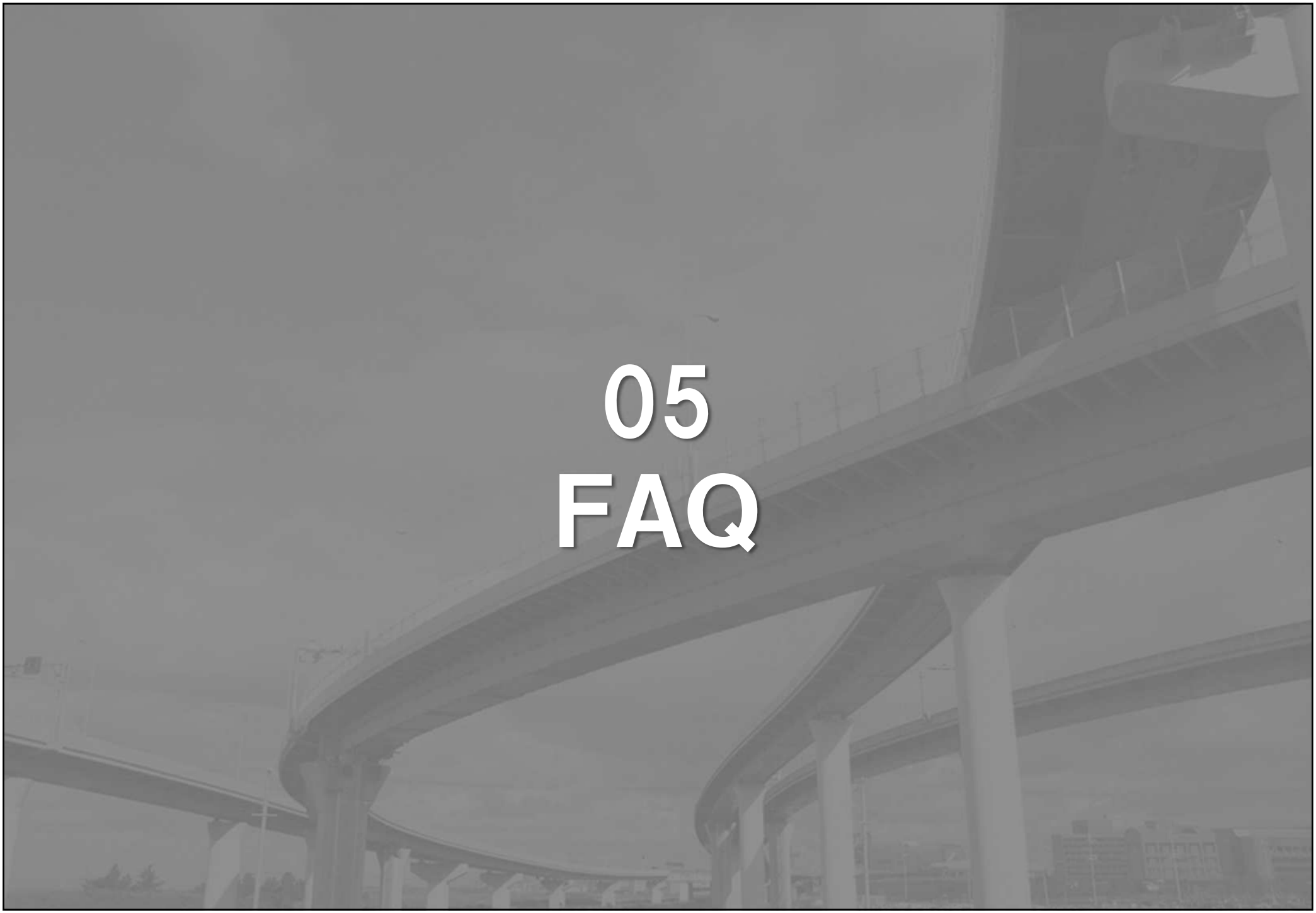
イノベーション交流会では、ニーズ説明や現場実証の機会を提供することにより、適用場面が具体化された状態で開発に着手できる

技術提案（従来方式）	イノベーション交流会	イノベーション交流会のメリット	
ニーズ説明なし	**ニーズ説明** 現場の業務・課題や、ニーズ、将来の目指す姿を説明	メリット	**現場の課題やニーズの理解を深められる**
		既存会員の声	✓ 道路事業者様のお困りごとについて、**生の声を聴ける貴重な機会**をいただけた。 ✓ 現場のニーズを詳細まで紹介いただき、より**業務の理解を深めることができた**。 ✓ 高速道路会社の**業務内容・課題の詳細を知ることが出来た。** ✓ 現場ご担当者様の意見を教えて頂けるのは**非常に勉強になった。**
技術の応募・書類審査 技術を企業側から応募し、書類審査にて判断	**シーズ提案** 事務局（NEXCO中日本）とディスカッションしながら、シーズの活用方法を提案	メリット	**シーズの活用方法に関して、ユーザーの意見を取り入れられる**
		既存会員の声	✓ 企画部会を設立させていただき、その活動を通して高速道路会社様の**ニーズに対して、弊社技術をどのように活用していくべきか、具体的な議論ができた**。 ✓ **具体的なニーズを伺えた上で、実証提案させて頂ける機会**を頂戴できた。
実証機会なし	**現場実証** 高速道路フィールドを活用し、技術の現場実証を実施	メリット	**開発着手前にシーズの有効性や課題等を確認できる**
		既存会員の声	✓ 実証部会において、**ニーズとシーズを相互に確認しながら、具体的な実証をできた**。 ✓ 実証部会を設立し、**フィールド検証が出来た**。
技術開発 適用場面を検討しながら技術開発を実施	**実用化開発** 実用化（業務導入）に向けた技術開発を実施	メリット	**開発後の技術の活用場面が明確化されており、手戻りが発生しづらい**
		これまでの実績	◆ イノベーション交流会内での実証完了数→ **27件** ◆ 上記の上、導入実績数→ **11件** ◆ 現在、導入検討中の技術数→ **4件**

イノベーション交流会の年間活動（2025年度）

【凡例】 対面のみ　オンラインのみ　ハイブリッド型

活動内容	目安	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動報告会	1回/年	2024年度活動報告会 4/25（名古屋）				繁忙期							
運営委員会	1回/四半期	運営委員会 4/17	運営委員会 5/14	運営委員会 6/11	運営委員会 7/16		運営委員会 9/17	運営委員会 10/8	運営委員会 11/12	運営委員会 12/3	運営委員会 1/14	運営委員会 2/10	運営委員会 3/11
交流会内イベント（対面会場）	1回/月	公募説明会 4/16（名古屋）	勉強会 5/23（東京）	現場見学会 6/6（八王子）	勉強会 7/18（名古屋）		意見交換会 9/19（東京）	勉強会 10/24（名古屋）	勉強会 11/21（東京）	現場見学会 12/11（静岡）	意見交換会 1/23（名古屋）	勉強会 2/20（東京）	勉強会 3/19（名古屋）
メインテーマ		活動内容説明	既存ニーズ振り返り	小仏トンネル渋滞対策	部会活動事例紹介		テーマ調整中	インフラ会社ニーズ	インフラ会社ニーズ	日本坂トンネルルート閉鎖	テーマ調整中	次年度活動意見照会	次年度活動方針決定
個別トピックス	1回/月	4/25 名刺交換会		6/20廃道 Open Day			9/19 集中個別相談会				1/23 集中個別相談会		会計監査 翌4月実施
DXコンテストプログラム	―				コンテスト企画・準備			申し込み・作品募集期間					事前審査 プレゼン審査
外部イベントへの参加	―	〔講演予定〕メンテナンス・レジリエンスTOKYO 東京ビックサイト（7/25）			〔出展予定〕CEATEC 幕張メッセ（10/14～17）HTF 東京ビックサイト（10/16～17）			〔出展予定〕あいちITSワールド ポートメッセなごや（11/22～24）			〔出展予定〕社会インフラテック 東京ビックサイト（12/10～12）		
その他取組み	―	データ利活用・会員交流専用サイト導入											
		個別相談（シーズ提案・シーズ内容・具体ニーズの相談） 随時受付											
		部会活動（調査部会・企画部会・実証部会） 部会設立会員および事務局にて随時実施											



05
FAQ

FAQ

#	分類	質問	回答
1	応募	資本金・従業員数等、入会に関して条件はあるのか	コンソーシアムの趣旨に賛同いただける企業、大学、研究機関等であれば入会いただけます。ただし、個人名義での入会は原則ご遠慮いただいております。
2		入会費の納付期限はあるのか	会費請求を発行後、3ヵ月先をお振り込み期限とさせていただいています。
3		2つの勉強会テーマを参加することはできるのか。その場合の会費は？	2つの勉強会テーマに参加していただくことが可能です。 会費は勉強会テーマ数に関係なく一律となります。
4	各種活動	勉強会や現場見学会などの毎月の活動には何名まで参加できますか？	入会いただいている団体単位で、何名でも参加可能です。 対面での参加には会場やバスの関係で人数制限を設ける場合もありますが、既会員も複数部署・複数名参加いただいています。
5		交流会の運営期間はいつまでか	2030年度までの活動を予定しています。
6		実証試験の費用負担はどうなるのか	交流会の活動にかかる費用は会員内でご負担いただきます。ただし、実証フィールドの利用に関わる費用は別途調整させていただきます。
7	情報公開・知財	情報公開はどのような内容を想定しているのか	一部活動内容（実証試験の開始等）や会員リストは、HP等を通じて公開いたします。
8		会員が交流会に関する情報を公開することは可能か	内容に応じて運営委員会にて判断させていただきますので、まずは事務局にお気軽にご相談ください。
9		知財はどのように取り扱うのか	部会の活動を行う中で発生した知財については、当該交流会の参加会員に帰属し、会員間で締結したNDAや共同研究契約等に従います。

おわりに

イノベーション交流会への参画について

イノベーション交流会

イノベーション交流会HPから新規会員を募集しています
お気軽にお問合せください

個別面談について

◆入会や問い合わせは事務局までご連絡ください

入会前の個別面談をオンラインで行うことも可能です
オンラインでの個別面談をご希望の団体は、
面談日の候補を事務局までメールにてご連絡ください。

イノベーション交流会 事務局
（NEXCO中日本 *i-MOVEMENT* 推進室内）

TEL : 052-222-3549　　FAX : 052-232-3739
MAIL: info_imovement@c-nexco.co.jp